

船橋市障害者生活支援事業

2000年9月発行

船橋障害者自立生活センターニュース号外

# 相談室だより 第11号

WAVEふなばし相談室

〒273-0011 船橋市湊町1-20-3 ミナトハイツ102号

TEL: 047-495-6777 / FAX: 047-495-6776

## 峰台小学校で車イス体験学習

～最近の相談から～



峰台小学校の渡辺先生から総合教育の一環として子供たちに車イス体験をさせたいとお話がありました。子供の時から福祉に親しんでもらうのはセンターとしても大歓迎、とんとん拍子に話がまとまり、7月4日、体育館で体験学習を行いました。

当日は体育館のマットや踏切り板などを利用してたくさんバリアを作り、6年生約80人に集まってもらいました。簡単な車イスの操作のしかたを学んだあと、スラロームや傾斜地の体験、人が乗った車イスを持ち上げて階段を上ったり降りたりする方法などをボランティアにも手伝ってもらって学習しました。

全員が車イスに乗ったり押したりする体験をしたあと質問の時間です。3人の車イスのお兄さんたちに車

イスで困ったこと、うれしかったこと、どんな所に行ったかなどを聞きました。飛行機に乗って海外旅行に行った話はとても興味深そうに聞いてくれました。

この様子はボランティアがビデオにまとめてくださいましたので、興味のある方は見に来てください。

あとで子供たちの感想文も見せてくださいました。子供たちにとっても新鮮な体験だったようです。

計画して下さった校長先生はじめ諸先生方、ご協力いただいたボランティアやPTAの皆様、車イスを沢山貸して下さった関係者の皆様、ありがとうございました。この体験で子供たちがどんな成長をみせてくれるか楽しみです。

(前田)



## 有意義だった車イス体験学習

摩嶋 祐子

一学校での福祉教育・体験学習は、子どもたちの視野を広げ、多様な価値観の存在を知る機会となり、必ずそこから何かに気づき何かを心に残すはず。そのように助言していくことが現場の職員や教師の役割でもありますね。一

これは、ある通信教育のレポート上で「単位や内申点のための押しつけられたボランティアは、何の役にも立たず、現場にとっても迷惑なこともあり、意味があるのだろうか。」という意見に対しての私のコメントです。

いつもそのような偉そうなことを書き続けている私の身近（わが子の学校）で、車イス体験学習がひらかれたのです。

子どもたちは、車イスを使用することは他人事ではなく、誰もが使う可能性があり、車イスで生活しやすいまちづくりをしていくことは、今、車イスで生活している人のためだけでなく、将来、自分や身近な

人の生活を保障していくことになるということに気付いてくれたのでしょうか。また、体験後、今までとは違う視点で街を見つめ、新しく気付いたり、発見したことがあるのでしょうか。10年後、20年後に思い出し、生活の中で役立ててくれるのでしょうか。そして、体験したことで逆にマイナスイメージを持った子はいなかったのでしょうか……。いろいろと思いめぐらせます。

今回の体験の結果は、すぐに形となってあらわれるものではないけれど、きっと子どもたちが、車イス・ボランティア・社会福祉等について考えるきっかけはつくれたと思います。それを広げていくのは、子どもたち自身ですが、超高齢社会という重荷を背負っていく子どもたちの心、他者を思いやる心を育てていくのは、親・学校・地域の大人たちの重要な役割であるのは確かなことと、今回の体験学習を通して感じました。

～コラム～

## ピア・カウンセリング

宮尾修

船橋市の委託で「生活支援事業」を始めることになり、相談室を開設してから3年。最初は相談に来る人がいるだろうか、電話はかかってくるかしらと心配でしたが、始めるとつぎつぎと相談がきて、扱った相談数は3年間で3400にも上っています。

これは窓口にいる前田さん外、職員の人たちの努力の賜物ですが、「支援事業」ではもう一つ重要な仕事として、ピア・カウンセリングというものを行っています。グループ対象の講座形態のと、個々人を対象にした個人カウンセリングとありますが、いずれも障害者だけで行っており、そこからピア・カウンセリングのピア（仲間もしくは同じ立場同士）という言葉も出ています。

講座はつづけて毎年開いており、今年は『翼よ、はばたけ』という受講者の記録文集をつくりました。個人ピアは3年前からですが、受講経験

を積んだ人が中心になり、相談にくる人と1対1で行っています。こちらの実績は、まだそう多くありません。

個人ピアは相互信頼とプライバシーの厳重な保護が必要です。普通は他人になど言えないこと、秘密も含め、心の中を見せるのですから、外の人のいるところではできません。専用の部屋がなければいけないのですが、現実はこの前は公民館、今度は女性センターと一定せず、実績にもそれが出ています。

市と県の間で、13年度予算の協議が始まっています。相談室からの要望はもう提出してありますが、専用ルールの確保をもとめて、事業予算の満額実施を要求しました。目的に合った環境をつくり、自立の基礎となるピア・カウンセリングを盛んにしたいと思います。

## 障害者の麻薬の乱用について

事務局スタッフ 塩野 剣士

センターに関わるようになって5年目になりますが、障害者の余暇の過ごし方については謎が多いです。

障害者でも...メクルメク快樂に浸ってみたい...

ディズニーランドでネズミ退治をしてみたい。

キャンプに行き、ヘリコプターに乗ってみたい。(救助) 手作りのオニギリ(具はガム)を作って、大好きな友達に食べさせてあげたい。

突然女装して家族をパニックに落とし入れたい。

車椅子のステップに鏡を付けて、ミニスカートの中を覗いて見たい。

釣りに行くと行って釣竿を持って、下着泥棒をやってみよう。

大好きな音楽を爆音で聴いてご近所に迷惑を掛けてみたい。

こっそり独りで裏ビデオを見てみたい。

仮面をつけて、乱交パーティーに参加してみたい。

1度だけ麻薬に手を出してみたい。

競馬、競輪、パチンコ、ボクシング、サッカー等、ジャンルにハマってみたい。

ピストルで人を撃ってみたい。(オイオイ...)

こういったごく正常な欲求はないのでしょうか？ あったら...

相談室に寄せられる相談は、生活する為の問題が多いと聞いています。

上に挙げたような楽しい生活？！についての相談を聞いたことがありません。

センターで介助のコーディネート等やりながら、こんな依頼がいつ来るのかと待っているのですが、まだ来ません。利用後に「で、どうでした？」とつい聞いてしまいたくなるような介助依頼を待っています。ところで、誰が介助に？

秋です。金色の穂をつけた枯れゆく草が、風の中で吹き飛ばされるのを待っています。希望を未来につないでいる、どこにでもある風景ですよ。

人物紹介 .....  
塩野剣士

車イス体験学習で楽しいバリアをいっぱい作ってくれたのも、夜の海岸に車イスの人たちをドライブに連れて行ってくれたのも塩野さんです。素敵なロック歌手で、優秀な介助者で、6月からはスタッフとしても働いてくださっています。(M・M)

### 編集後記

4年に1度のスポーツの祭典、オリンピックの季節です。今回は200カ国、約10,200人の選手が参加するということです。日本の選手たちにもがんばってほしいですね。マラソンの円谷、君原、柔道の猪熊、重量挙げの三宅、そして鬼の大松監督率いる女子バレーボールの東洋の魔女たち…。えっ、古すぎる？ いつの話してるんだ？ ダハー、いつのまにかレトロモードに入ってしまった。しかしこのネタが通用するのは少なくとも40以上の人でしょうねえ。あ～、やだ。(〃；  
嗚呼、昭和も遠くなりけり、オイラもジジイになりけり、か。(穴黒な編集子)

